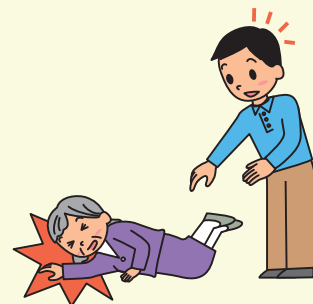


(2) 転んで大けが

高齢者は、ちょっと転んだだけで大けがにつながる場合があります。

事故は、「つまづく」「すべる」ことにより起こることが多いので、段差をなくすなど原因を取り除いてあげましょう。

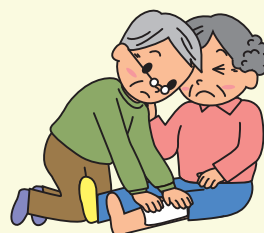
高齢者の行動には心を配り、いつでも援助の手が差し伸べられるようにしましょう。



ワンポイントアドバイス

転んで出血した場合は

- 腕や足の根本を縛るように圧迫すると、神経を痛める恐れがありますので、清潔なタオルやガーゼなどで、出血箇所を強く押さえるようにしましょう。
- 押さえても脈打つように出血する場合は、救急車を呼びましょう。



出血箇所を強く押さえる

転んで骨折が疑われる場合は

- 次のような症状の場合は、骨折を疑ってください。
 - ・患部がはれている
 - ・形が変わっている
 - ・皮膚の色が変わっている
 - ・動かしたり、触れたりすると激しく痛がる
 - ・自分では動かせない
- 応急処置の注意点
 - ・骨折部で皮膚を破らないように、手や足を図1のように固定します。固定には、副木(板、ダンボール、雑誌など)をあて、医療機関を受診しましょう。
 - ・傷口から骨が見える場合は、図2のように傷口に清潔なガーゼやタオルなどをあて、その上から軽く包帯を巻きます。この場合は、重症ですので、すぐに医療機関を受診しましょう。
 - 骨の関節が外れたり(脱臼)、突き指した場合は、押ししたり、引いたりするなど無理に元に戻さないでください。現状のまま、医療機関を受診しましょう。

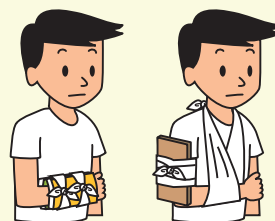


図1 副木のあて方



図2 包帯の巻き方

転んで大けがをしないために

- ① 床の段差をなくしましょう。
- ② 床や廊下にコードなどを、はわせないようにしましょう。
- ③ 階段、浴室、トイレなどに手すりをつけましょう。
- ④ 廊下や階段は、照明で足元を明るくしましょう。

